PREXの同窓会ネットワーク強化・活用状況について

公益財団法人太平洋人材交流センター (PREX) 瀬戸口恵美子

内容

- PREX紹介
- PREXの同窓会・帰国研修員の状況 (実績)
- PREXビジョンと同窓会・帰国研修員ネットワーク
- 現在の取り組み
- 課題



PREXCOUT

■ 設 立:1990年4月

■ 基本財産:36億円

(関西の97社の民間企業、大阪府・市、京都府・市、兵庫県・神戸市からの寄附)

■ 目的:途上国の発展を促進するための核となる人材の育成 研修を通じた、関西での国際的な人材の交流の活発化、

国際的な人的ネットワークの構築

■ 事業:日本での研修事業の実施(年間35件程度、JICA関西からの受託実施ほか)

同窓会フォローアップ、関西のグローバル化への貢献 など

■ 職員数:26名(正職員、民間企業からの出向職員、契約職員など)



PREXで実施する研修の主なテーマ(分野)

経営管理分野

- 人材育成、組織管理
- マーケティング
- カイゼン、生産品質管理
- 経営戦略、理念

中小企業振興

- 支援政策、施策
- 支援機関の役割
- 活用企業の評価

環境

- 省エネ
- 太陽光発電
- 水、大気改善

観光振興

- 観光振興策
- 観光資源
- おもてなし

- 一村一品·地場産業振興
- 伝統産業·地場産業
- 一村一品運動

輸出促進、投資促進

- 輸出産品
- 投資環境
- 輸出促進施策
- 投資促進施策

PREX実施の研修について

■ 研修のテーマと参加者(2015年度の実績)

| 事業形態 | 受入研修 | | 海外研修 | | 交流 (同窓会フォローアップ) | | 合計 | |
|--------|------|------|------|------|--------------------|------|----|------|
| 分野 | 件数 | 参加者数 | 件数 | 参加者数 | 件数 | 参加者数 | 件数 | 参加者数 |
| 経営管理 | 18 | 195 | 1 | 0 | 1 | 77 | 20 | 272 |
| 中小企業振興 | 5 | 48 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 48 |
| 環境 | 3 | 28 | 0 | 0 | 1 | 20 | 4 | 48 |
| 貿易振興 | 3 | 40 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 40 |
| 地域振興 | 2 | 25 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 25 |
| 観光振興 | 1 | 11 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 11 |
| 合計 | 32 | 347 | 1 | 0 | 2 | 97 | 35 | 444 |

■ 参加者:途上国の行政官、支援機関の職員、経済団体幹部、企業経営幹部

委託元: JICA関西、関経連、リロパナソニックエクセルインターナショナルなど

PREXの同窓会・帰国研修員の状況(実績)

帰国研修員の状況:1990年以降の研修参加者(訪日研修)累積人数 ※50名以上の実績のある主要な国のみを記載

| 国名 | 人数 | 国名 | 人数 | 国名 | 人数 |
|--------|-----|---------|-----|-------|-----------|
| 中国 | 922 | キルギス | 179 | イラン | 84 |
| マレーシア | 763 | ウズベキスタン | 162 | シリア | 50 |
| ベトナム | 581 | カザフスタン | 140 | ガーナ | 65 |
| インドネシア | 253 | モンゴル | 103 | ブラジル | 70 |
| ミャンマー | 162 | シンガポール | 70 | メキシコ | 65 |
| タイ | 143 | カンボジア | 69 | ニカラグア | 59 |
| ラオス | 131 | インド | 64 | ポーランド | 69 |
| フィリピン | 112 | | | | |

PREXの同窓会・帰国研修員の状況(実績)

■ 同窓会のある国・地域

| アセアン | | 中央アジア | その他 | |
|--------|-------|----------|--------|--|
| インドネシア | ベトナム | カザフスタン | 中国 | |
| マレーシア | カンボジア | キルギス | 重慶(中国) | |
| タイ | ミャンマー | ウズベキスタン | メキシコ | |
| フィリピン | ラオス | タジキスタン | モンゴル | |
| シンガポール | | トルクメニスタン | | |

- ※過去の研修参加者の多い国などを中心に同窓会を設立
- ※同窓会は事務局担当者などは設定せず、会長のみ選出

PREX「ビジョン」における、同窓会・帰国研修員ネットワーク

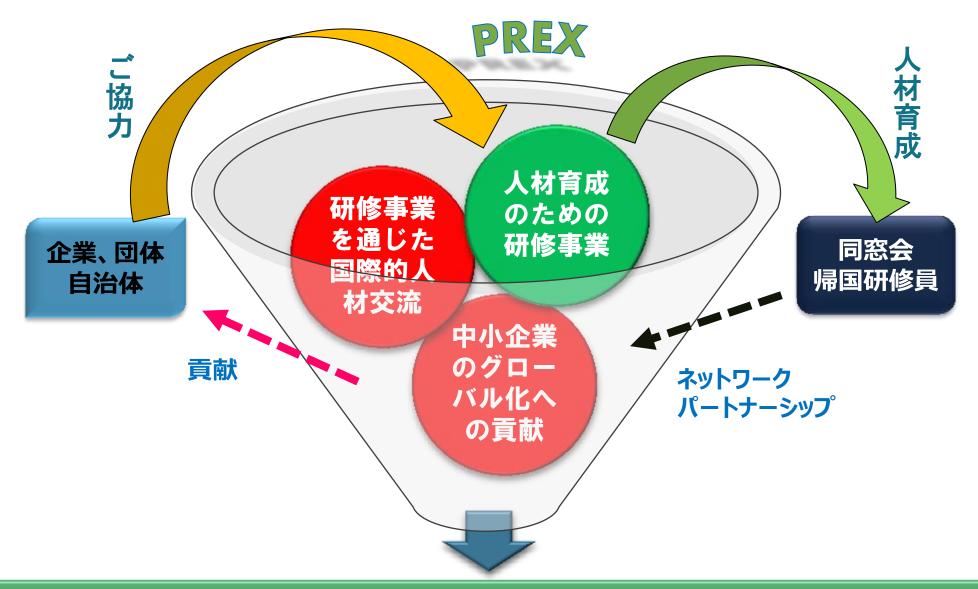
■ PREXの使命:途上国の発展を促進するための核となる人材の育成(研修)

研修を通じた、関西での国際的な人材の交流の活発化、

国際的な人的ネットワークの構築

- PREXビジョン(2008年~):「途上国と関西にとってなくてはならない存在を目指す」
- 途上国対象の研修は20年以上の実績を積んでいるが、関西にとって何をしてきたのか? 関西のグローバル化、国際的な人材交流への貢献が必要な時!と再認識
- PREXにとっての財産は、
 - ①研修後帰国して活躍している研修員とのネットワーク
 - ②研修実施に協力していただく関西を中心とした企業、自治体、組織など お互いをつなぐことで、この循環を継続させることができるのではないか?

PREXビジョンに向けて



【PREXビジョン】途上国と関西にとってなくてはならない存在

PREX 帰国研修員ネットワークの強化と活用

PREX

- ・継続性の要=人
- ・外部との繋がりが不可欠→ 研修員と協力者を繋ぐ役割
- ・ビジョンの達成

ゴール

支援·事業· 貢献

- ①帰国研修員の成功支援
- ②PREX事業の改善、開発
- ③協力者など関係先の役に立つ

帰国後

研修改善 発展研修 ニーズの確認 研修成果、評価の把握

フォローアッフ°

成果・進捗の確認 切磋琢磨・激励 専門家からの支援

研修時(来日中)

関係維持

·強化

<u>ネットワーク</u> 研修員同士(国・年度) 研修員/PREX/協力者 <u>チームビルディング</u> 学びを深める

成果を出す 関係づくり 会う機会づくり メール、SNS経由

研修成果 研修員の課題の明確化 課題の解決策を考察 具体的な活動計画

同窓会などの組織化 協力者のニーズ←ネットワーク活用 協力者へのフィードバック 研修員間学びあい アイスブレーク サポート・情報提供

プログラムの充実 ファシリテーション

同窓会、帰国研修員との関係強化(現状)

訪問

• 「同窓会フォローアップ」(PREX独自) (年1~2件が目標) 例)2015年 中央アジア(3か国)フォローアップ

TV会議

• (JICA)帰国後の報告会、来日中・帰国研修員間の意見交換 例)2015年 キルギスビジネス実務、太陽光発電研修(研修ごとに実施)

メール、SNS

- メルマガの発信(年4回程度) PREXNOW英文版の紹介
- Facebook: PREX公式ページ、研修ごと、国ごと

その他

• 来日の機会の提供(不定期) 例)PREXシンポジウム、他団体事業への推薦

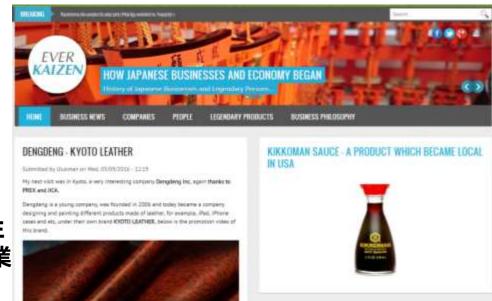
成果

- 大阪の中小企業がタイでビジネスマッチングツアー (2013年)
 - ⇒ PREXよりタイ同窓生(工業省、民間企業)を通じてタイ企業の参加をよびかけた
- ・ ベトナム進出している中小企業
- **→** アセアン対象研修で企業訪問(ベトナム周辺でのネットワークづくりを希望) いずれもその後の成果は把握できず



キルギス同窓会 のfacebook

> 日本留学中の同窓生 が作成した、日本企業 の紹介サイト ⇒



強化が必要な点

- フォローアップに繋げる、研修成果、進捗などの見える化 ・・・フォローアップを通じて関係強化・維持
- 帰国後も関係維持できる、来日中の研修員・PREXのチームビルディングの強化
- 帰国後も、研修員・帰国研修員との人間関係を維持 ➡ 人対人を通じ、PREXのネットワークとする
- 直接に会える機会づくり
 現地への訪問(定期的な同窓会フォローアップ実施)
 再来日の機会提供(再研修、ビジネス機会づくり、他団体の事業参加ほか)
- 日本側協力者(訪問企業)との関係強化 研修員、帰国研修員との関係強化に対するニーズの把握 (国・地域のニーズ、交流のニーズ、情報提供・紹介のニーズ) 研修結果・評価のフィードバック ・・・訪問先にとってもモチベーション 協力者の拡大(業種、地域など訪問先の幅の拡大)・・・研修充実にもつながる

帰国研修員・同窓生ネットワークの強化と活用における課題

| 研修員 | 帰国後の所属先、連絡先などのデータベースのアップデート (来日時、登録するものの、その後の更新は本人からの情報待ち) 関係維持のための手段の開発 成果のフォローアップと、ネットワークの強化の両立 研修員から見た、ネットワーク強化によるメリットは? |
|------|---|
| 協力者 | 企業にとっての活用のニーズやメリットが明確ではない。 どういう目的で、どんな情報を求めており、どう活用したいのか? PREXとして、求められることにどこまで対応できるか? |
| PREX | Face to faceの関係→関係を維持・ケアできる範囲が限定されるのではないか? 他団体と組織を超えた人材ネットワーク、日本の企業のニーズをどう共有し、活用できるのか? (活動のビジョンの明確化と共有) 人的関係は個人対個人がベース ➡ 組織として引き継ぐには? |